

井原市公共交通会議（第5回） 会議概要

と き 平成25年1月17日（木）

10:00～12:00

ところ 市役所 4階 大会議室1・2

1. 開 会

1) 会議の成立を報告

・出席者 委員 23名中 実出席 15名 代理出席 4名

2) 三宅会長あいさつ

2. 報 告

1) 各事業の実施状況について

・事務局説明

(三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。

(委 員) 参考資料として配られた井原あいあいバス（井原地区）の色刷りの時刻表・路線図であるが、色彩もよく見やすく作られており、乗ってみたいという気持ちにさせてくれる。

(三宅会長) 時刻表や路線図が、利用のきっかけになればよいと思う。

2) 市内全バス路線利用状況調査の実施結果について

・事務局説明

(三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。

(三宅会長) 「嫁いらず観音線」の「下出部町二丁目」の調査期間中における乗降者数が減少したことに関連して、「利用者アンケートにおいて乗り継ぎ改善等の意見が7件寄せられた」とのことだが、何か象徴的な意見があれば紹介してほしい。また、市中心部循環区間の井原駅の乗降者数が減少していることは、井原鉄道との交通結節点という役割からすると少し辛い結果であるが、このことについて意見を伺いたい。

(事務局) 「嫁いらず観音線」及び「馬越恭平線」は各地域から井原駅で乗り継ぎなしでそのまま市中心部へ行ける点では便利になったが、市中心部以外の目的地へ行く場合の「嫁いらず観音線」との乗り継ぎが不便になったとの意見もある。岡山大学との共同研究事業におけるアンケート結果等も踏まえ、今後検証したい。

また、市中心部循環区間の井原駅での乗降者数の減少については、「嫁いらず観音線」及び「馬越恭平線」と「田中美術館線」との統合により、井原駅での乗り継ぎが不要になったことが理由であり、井原鉄道との乗り継ぎ客が減少したのではない。

(委 員) 井原～笠岡線について、「井原方面の通学流動が減少する一方で、笠岡方面は増加している」とのことだが、バスで通学していた生徒が他の交通手段に転換したということか。

(事務局) 井原方面へ通学する生徒の絶対数が昨年度より減少したのではないかと考えているが、高校に確認したい。

### 3. 協 議

#### 1) 平成25年4月以降の運行(案)について

＜路線バス(井原～笠岡線、井原～福山線)＞

##### ・事務局説明

(三宅会長) 委員のみなさんからご質問等はないか。

(委 員) 暫定運行期間に減便した箇所について、利用状況調査の結果等を踏まえ、できるだけ復活させるということだが、利用が少ないので減便されたのではないのか。現時点で慌てて復活させることができるくらいなら、暫定運行時点で残すこともでき、利用客の減少も生じなかったのではないか。暫定運行ダイヤが決まった経緯を伺いたい。

(事務局) 当初案では減便数がもう少し増えているはずであったところ、交通事業者との交渉を経て、可能な限り便数の確保に努めたのが、11月からの暫定運行ダイヤである。その後、実際に運行をしてみて、車両や運転士の運用に目途がついたため、今回、増便を検討するものである。

(委 員) 本件は協議事項であるが、本日、この場で意見を述べて、今回の事務局案を修正することが可能であるのか伺いたい。他の市町にも影響する案件であるため、既に関係市町との間である程度合意済みなのであれば、協議事項として成立しないのではないかと考えるが、どうか。

(事務局) 事務レベルでは交通事業者及び関係市町との協議を行っているが、本日の会議で変更・修正があればそれを最終案とし、交通事業者及び関係市町村と再度協議・調整を行うので、変更・修正は可能である。

(委 員) 住民代表の方の意見を伺いたいが、この場ではなかなか意見を言いにくい雰囲気がある。ボリュームもあるので、前もって資料をいただくとよかった。本当にこの場で協議をするのであれば、1週間程度前には情報を提供してほしい。

(三宅会長) 公共交通会議の今後の進め方についてご提言をいただいた。私も同感である。それでは、私から意見を述べたい。「井原～笠岡線」の笠岡発の最終便が、もう少し遅くまでであるとよいと思うが、どうか。

(事務局) 交通事業者によると、車両運用や運転士の確保等の問題があるため、21時台の便の復活は困難とのことである。しかし、JRのダイヤ改正や、本年10月に予定している路線・ダイヤの再見直し等に合わせて、今後協議したい。

(三宅会長) 潜在需要等も踏まえ、乗っていただけるダイヤを目指し、知恵を出し合いたい。

(委 員) 次回の路線・ダイヤの見直しでは、井原鉄道への乗り継ぎが確保されているかについても検証課題としてほしい。

(事務局) 本年度の利用状況調査は、先ほど説明したとおり11月に実施したが、来年度は5月頃の実施を考えている。井原鉄道との接続についてはその中で調査を行い、10月の見直しに反映したい。

(委 員) 平日朝、笠岡方面からの便に若干の積み残しがあったとのことだが、実際にどの程度であったか伺いたい。

(事務局) 県立井原高校へのアンケート調査(昨年12月実施)で、笠岡方面からのバス通学者67人のうち、「バスに乗れなかった」、または「自分が乗ったバスに乗れなかった人がいた」と回答した生徒が12人いた。その対応として、この案では笠岡方面からの朝の時間帯に増便している。

(委 員) 「井原～福山線」について、減便の対応として井原鉄道を利用する人が増えたよ

うに感じる。

- (事務局) 暫定運行開始前に行ったアンケートでは、減便への対応として、井原～笠岡線では「バスを利用する時間帯をずらす」という回答が、井原～福山線では「別の交通手段を利用する（主に鉄道）」という回答が多かった。その後に実施した利用状況調査においても、その結果と同じような傾向がうかがえる。
- (三宅会長) 暫定運行開始前に行ったアンケートの実施に際しては、岡山大学の橋本先生、先生の研究室の学生のみなさんにご協力をいただいているということもこの場で紹介しておきたい。
- (委員) 本日の会議全体を通してであるが、数名の方からの発言はあったものの、なかなか意見が出なかったことを事務局はどのようにとらえているのか伺いたい。
- (事務局) 先ほどのご指摘にもあったとおり、ボリュームのある資料を当日に渡されても、その場で内容を理解して意見を述べるのは困難であるということだと思う。今後は、可能であれば、資料の事前送付も検討したい。
- (委員) 毎回、充実した資料が示される会議であると感じているが、例えば今回の利用状況調査の結果など、当日に初めて見る場合には要点がわかりにくいので、意見を出しにくい。同様のことが過去にも数回あった。ポイントを絞った説明ができれば、調査結果も単なる報告ではなく協議事項になりうる。もし、議題の一つひとつをしっかりと協議するのであれば、資料を事前に配付した上で会議を開催しないと、委員から一言も発言がないまま終わることにもなりかねない。次回以降の会議では、進行と説明の方法、時間の使い方を工夫してほしい。
- (三宅会長) 非常にありがたいご指摘である。今後は、議論が高まるような工夫をした上で、会議に臨みたい。
- (三宅会長) ほかにご質問等はないか。  
ご質問等がなければ、原案のとおり承認してよいか。

委員拍手（協議事項承認）

#### 4. 閉 会

仁科副会長あいさつ